

平成20年度長期社会体験研修修了報告書

研修者名 萩原 幸則 (中学校教諭)

研修先企業・部署名 株式会社ベイシア前橋モール店・青果部門

1 研修内容

(1) 新入社員研修

- 入社式【4月1日】(研修場所：ベイシア本部)
- レジ研修【4月2日、3日】(研修場所：西部モール店)
- 第1回1年生セミナー【4月16日】(研修場所：軽井沢倶楽部)：就業規則、チェーンストア経営の目的 等
- 第2回1年生セミナー【5月21日】(研修場所：軽井沢倶楽部)：チェーンストア経営の目的と現状 等
- 接客セミナー【6月4日】(研修場所：ベイシア本部)：接客のマナー、ルール 等
- 第3回1年生セミナー【6月12日】(研修場所：軽井沢倶楽部)：6/16の正社員登用試験に向けた演習
- 第4回1年生セミナー【7月2日、3日】(研修場所：ベイシア本部 他)
先輩社員とのハネルディスカッション、ITセミナー、前橋市教育委員会指導主事齊藤裕徳先生講演、前橋流通センター見学、流通技術研究所見学、西部モール店見学 等
- 第5回1年生セミナー【10月8日、9日】(研修場所：ベイシア本部 他)
社長講話、メーカー工場見学(ロッテ浦和工場)、数字の理解 等

(2) 店舗での業務研修

- レジ業務【4月5日～4月20日】：レジ登録の流れ、打ち違い処理、領収証の発行、商品券、クレジットカードの取扱方 等
- 生活雑貨部門業務【4月22日～5月16日】：商品陳列、品出し、ポップ(値段表示の紙)作成、棚替え、売り場づくり 等
- 加工食品部門業務【5月17日～6月15日】：品出し、売り場づくり、商品の売価確認、商品の発注、ポップの入替作業 等
- 青果部門業務【6月16日～】：品出し、加工作業、商品の発注、売り場づくり 等
- 地場生産農家体験実習【10月23日～25日】(研修場所：地元生産農家)
地元の生産農家から、商品が売り場に出るまでの流れを実体験
- 青果バイヤー活動体験研修【1月23日】(研修場所：東京大田市場 他)
仲卸業者との商談の見学、大田市場見学 他
- 前橋青果市場見学【2月7日】(研修場所：前橋青果市場)
野菜、果物の取引(競り)の様子を見学

(3) その他の研修

- 採用活動体験研修(学生採用活動)①【1月6日】(研修場所：グリーンドーム前橋)
合同会社説明会への参加
- 採用活動体験研修(学生採用活動)②【1月17日】(研修場所：ベイシア本部)
ベイシア会社説明会への参加
- バイヤー活動体験研修【1月22日】(研修場所：さいたまスーパーアリーナ)
日本アクセス2009春季展示商談会への参加(展示会、商談の見学)

2 研修から学んだこと

(1) 「現状否定からの出発」

小売業、流通業の流れは速い。消費者が求めるものの動きが速く、それに伴い業務の動きも速くなる。現状に満足していると、あっという間に消費者のニーズに応えられなくなる。従って、ベイシアでは「現状否定からの出発」という意識が強い。常に様々な情報を取り入れ、新しいことに挑戦していこうと取り組んでいる。こういった流れの全てが教育現場にあてはまるものではないが、消費者が求めるものをきちんと捉えようとする姿勢や固定観念にとらわれない現状否定の意識は、教育現場にも必要であると強く感じた。そして、生徒が何を欲しているのか、どうすれば生徒が学ぶ喜びを実感できるのかということ捉え、具体的な取り組みを打

ち出していくことの重要性を深く考えさせられた。

(2) 「社会貢献」

ベイシアの経営理念の最初にあるものは『For the Customers (お客様のために)』である。この理念の下、ベイシアでは、日常生活必需品をどこよりも安く提供することで地域の人々のより豊かな生活づくりに貢献しようと、チェーンストア経営を展開している。チェーンストア経営の目的は、全国どこでも同じ水準でサービスの提供をすることである。また、ベイシアではチェーンストア経営だけに留まらず、地域文化振興活動、環境保護活動などを行い、地域社会に貢献していく姿勢を強く打ち出し、経営理念の実践を行っている。

こうしたベイシアの実践や社員の方たちの取り組みを見てきて、私は、社会貢献は自分の存在を実感することができ、「生きる力」を育む大切な活動であると再認識した。社員の方たちからは、チェーンストア経営そのものが社会に貢献しているという誇りとやり甲斐が感じとれた。自分たちの業務が会社の業績の一端を担っているという意識、更には社会に貢献しているという意識が、日々の生活の大きなエネルギーになっていると強く感じた。この意識は、まさに自分の存在を実感しているのである。自分の存在を実感することによって生きる力が育まれる。教育現場では、その生きる力を育むことを目指している。ベイシアでの研修は、生きる力を育む大きなヒントを示してくれた。

(3) 業務研修を通して

生活雑貨・加工食品・青果部門とこれまで3部門の研修をさせていただいた。どの部門も時間・動きのロスをいかに少なくするか追求し、時間や労働力の効率化を図っている。〈ムダ・ムラ・ムリ〉を省くことはお客様へのサービスや売りに直結する。学校現場でも時間の使い方や物事に対する取り組み方を再考することによって、より効果的な時間が生みだせ、勤務のスマート化に役立てることができると感じた。

青果部門では毎日の食材の生鮮食品を扱っており、売値や商品陳列の仕方によって販売量が日々大きく変わってくる。それに対し、チーフを中心にスタッフはその状況に即してよりベターな対応をしている。こういったその場でのタイムリーな対応力、判断力は教育現場でも迫られることはある。この青果部門のように、与えられた条件の中で、これまで培ってきた知識や経験を総合的に駆使して行動できる実行力の重要性を感じた。

3 所感

1年間の社会体験研修を通して、固定観念にとらわれない現状否定の意識の必要性を新鮮に刺激的に感じることができた。今後は「現状否定からの出発」という意識の中で、改善・改革をどのように具体的に実践できるかが課題である。また、社会に積極的に関わっていくことの重要性も深く考えさせられた。学校現場にもどり、児童・生徒たちに、学校生活という社会の中で「自分の取り組みの成果を味わう」「他との関わりの中で自分の存在感を味わう」といったことを意識する活動を多く作っていきたい。そういったことを重ねることで、学校生活のおもしろさや楽しさを味わえ、「生きる力」を養うことにつながると考える。

今回の社会体験研修で小売業、流通業に携わり、企業社会や経済などの見聞を広めることができた。また、その道で豊富な知識や経験を兼ね備えた人たちに出会えたことは、学ぶ点が多く、貴重な財産となった。

最後になりますが、大切な業務がある中、前橋モール店をはじめとするベイシアの皆様には、何も分からない私に、温かく丁寧に指導くださり、本当にありがとうございました。なんとか1年間の研修に取り組むことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。また、このような貴重な体験をさせていただくにあたり、学校長、県教育委員会をはじめ、多くの方々にご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。